

ヒノキコンテナ苗検討会を開催

〔岐阜署／森林技術・支援センター〕5月14日、岐阜署管内の門坂（かどさか）国有林において「ヒノキコンテナ苗検討会」を開催したところ、県内の林業団体等約40名の参加がありました。コンテナ苗は、造林の低コスト化・省力化が図れるとして普及が期待されていますが、岐阜県内では生産、普及とも進んでいない状況にあります。



ディブルによる植栽

最初に岐阜署及び森林技術・支援センターから、コンテナ苗の特徴や国有林での利用実績、岐阜県森林研究所から、ヒノキコンテナ苗の規格や生産方法について説明を行いました。その後、岐阜署、森林技術・支援センター職員の指導の下、コンテナ苗用に開発された種々の植付器具や当センターが急傾斜地植栽用に改良したクワを使って植栽体験をしていただきました。参加者からは「植栽器具の違いがよくわかった。」、「急斜面では改良クワが植えやすい。」、「苗の運搬が課題では」等の感想や意見が出されました。今後は、無地拵えや無下刈りによる初期保育の低コスト化や各種の植栽器具の作業効率、労力の軽減効果等について岐阜県森林研究所と共同で実証試験に着手し、地域に適したコンテナ苗の育苗やコンテナ苗を導入した造林技術の普及に取り組んでいくこととしています。

カラマツ優良種子の安定供給に向けて技術講習会を開催（環状剥皮の実施）

〔東信署・森林整備課・技術普及課〕カラマツ苗木生産は、植付箇所の減少から縮小傾向にある中で、中部森林管理局では、近年の合板や集成材への需要の高まりなどにより、業界からカラマツ種子を提供してほしいとの要望を受け、昨年、東信森林管理署管内清万（せいまん）採種園から約78キログラムの球果を採種しました。

6月2日、今後の優良種子の安定的な供給に向け、同地において国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センターの協力を得て技術講習会（環状剥皮）を実施しました。同センター育種部指導課久保田技術指導役の指導のもと、結実促進のための採種園管理の方法やカラマツの着花促進に有効である環状剥皮の技法について指導を受けました。その後、参加者39名（林木育種センター3名、山梨県1名、長野県1名、関東森林管理局5名、中部局・東信森林管理署29名）で2段、3段剥皮や、剥皮幅を変えた環状剥皮を計41本実施しました。清万採種園での環状剥皮等の実施は約30年ぶりであり、今回実施した環状剥皮の着花促進効果について経過観察を行なうとともに、今年度、カラマツ採種園の着花促進のため、採種園内の路網整備と併せた受光伐等を実施することとしています。



環状剥皮実施後の清万採取園